

昨年春、深溝松平家7代当主松平忠雄公の墓所修復に伴う発掘調査で豪華な副葬品が発見され、新聞・テレビなどで大変話題となりました。それ以来「深溝松平」や「深溝松平家菩提寺本光寺」という名前が多く聞かれるようになったかと思えます。そこで、今回は町民の皆さんにこの「深溝松平家」を知っていただくための特集をしたいと思います。

この深溝松平家ですが、徳川家康と先祖を同じにする三河松平一族になります。蒲郡市の五井を本拠地としていた松平忠常が、息子松平忠定に深溝の地を分け与え独立させたことで一家が成立しました。その後、深溝を中心に勢力を広げ、5代松平忠利の頃には、現在の幸田地域の半分くらいは支配していたようです。(下図参照)

深溝松平家歴代の当主は安城松平家・徳川将軍家に仕え、徳川家康の天下統一を支えました。2代・3代・4代の当主は、徳川家康の重要な戦いに従い、先陣など大事な役目をもたらす手柄をあげています。このように主君からは非常に大きな信頼を得ていました。

5代以降の当主は將軍からの信頼に応え、泰平の世のために尽くしました。例えば5代忠利は三河吉田藩主として、東海道の要を守りながら安定した政治を行っています。



▲5代忠利肖像画

6代忠房は、三河吉田・三河刈谷・丹波福知山・肥前島原と領地を異動しながら荒廃した領地・藩政の充実に努めました。この忠房は京都府福知山市や長崎県島原市において名君として評価されています。また領地が島原に移って以降、長崎出島の見張りや警護など特別な仕事を幕府から命じられていました。もっともこちらの仕事については、オランダ商館長から接待を受けるなど、楽しみもあったようです。

「なぜ深溝にお墓があるの？」



▲現在の島原城

島原の大名が歴代藩主の亡きがらを納める場所を、なぜ三河深溝の本光寺に定めたのでしょうか。実はこの答えはまだ見つかっていません。しかしながら、幕末の島原藩においては「松平忠利公の遺命により深溝の本光寺が墳墓の地となった」と伝えられていたことはわかっています。

関ヶ原の戦いの後、5代松平忠利に常陸国（茨城県）へ異動の話が出た時、それを断り、父祖伝来の地である深溝をもらえようという徳川家康に申し入れをしたといわれています。これは受理され、深溝西郡藩の藩主として深溝に戻っ

てきます。三河武士は三河の地に対する思いが非常に強く、石高が低くても三河に領地がほしいという旗本が多かったようで、忠利も同様であったのでしょうか。これらの忠利に関する逸話は、お墓の歴史を考えていくための資料の一つになります。

深溝松平家の調査は今後も続いていきます。深溝松平家に関する情報、また、室町時代や江戸時代の深溝地域に関する古文書などの資料をお持ちの人がおられましたら、ぜひ情報の提供をお願いいたします。あなたのお持ちの資料が幸田の歴史に新たな1ページを加えることになるかもしれません。



▲6代以降の墓所が築かれている東御廟所



本光寺文化財調査指導委員
愛知教育大学名誉教授
新行紀一先生

墓所をどこに定めるかは各大名の自由ですが、本光寺を歴代の墓所と定めた理由については、5代忠利の思考を受けて神道や儒教をしっかりと学んでいた6代忠房の考え方を丹念に調査していくことで明らかになっていくでしょう。現在進めている調査でそのあたりのことについての情報が見つかれば非常に大きな成果となります。



▲本光寺文化財集中調査の様子

問合せ 幸田町教育委員会生涯学習課
生涯学習G（内線196）